

血対ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	新出文 献
70107	2007/09/ 21	70537	肝炎	Med Mol Morphol 2007; 40: 23-28	ALTが高く、HCV抗体とB型肝炎表面抗原が陰性である献血者からの血漿検体中のウイルス様粒子(VLPs)を視覚的に捉えようと試み、また、このVLPsと非経口的に感染するGBV-C/HGVの遺伝子との関係を調べた。その結果、循環血液中のVLPsの検出率は、有意にALTレベル上昇と関係($P<0.001$)していたが、VLPsを含む血漿のいずれにも、GBV-C/HGV RNAは検出されなかった。電子顕微鏡で球状のVLPsが確認され、それらが非B非C型肝炎に関係していることが示唆された。	
70130	2007/10/ 24	70649	寄生虫 感染	Int J Med Microbiol 2007; 297: 197-204	ドイツにおけるヒトバベシア症の初めての症例を報告する。患者は結節性リンパ球性ホジキンリンパ腫が再発し、脾臓摘出されたドイツ人の63歳男性で、リツキシマブ投与後、貧血とヘモグロビン尿による暗色尿のため入院した。末梢血塗抹標本で梨状の寄生虫赤血球封入体が確認されバベシア症と推定され、Babesia特異的18S rDNA PCRによって確認された。シーケンス分析によりEU1と99.7%の相同性があり、EU3と名づけられた。寄生虫が消えるまでにはatovaquoneによる長期治療を要した。	45
70112	2007/09/ 28	70553	結核	Emerg Infect Dis 2007; 13: 380-387	第二選択抗結核剤6クラスのうち3つ以上に耐性を示す多剤耐性結核を広範囲薬剤耐性結核(XDR TB)と定義し、2000年~2004年のSupranational Reference Laboratoriesのネットワークを調査した。48カ国からのMycobacterium tuberculosis分離株17,690のデータが提供され、多剤耐性分離株3,520のうち、347(9.9%)がXDR TBであった。	46
70112	2007/09/ 28	70553	細菌感 染	ABC Newsletter 2007年4月13 日 21ページ	2004年度から2006年度にかけて米国食品医薬品局(FDA)に報告された輸血関連副作用による死亡症例数である。3年間の合計は219例で、内訳はTRALI86例(39.3%)、その他の副作用(ABO不適合以外の溶血反応、輸血関連心過負荷、細菌感染、アナフィラキシーなど)67例(30.6%)、細菌感染20例(9.1%)、ABO不適合による溶血反応15例(6.8%)、輸血が原因である可能性が否定できない症例31例(14.2%)となっている。	
70112	2007/09/ 28	70553	細菌感 染	American Society for Microbiology 107th Annual Meeting: L- 004 2007年5 月21-25日	日本の三次医療施設である自治医科大学病院(病床数1082床)において、2006年4月1日~8月31日に、患者28名の血液培養からBacillus cereusが検出された。リネン類の汚染と末梢静脈ラインの不適切な取り扱いが原因であると考えられた。一時的にリネン類のオートクレーブ処理を行い、洗濯機を洗浄し、末梢静脈ライン管理について職員の教育を行ったことで、B. cereus陽性血液培養はその後検出されなかった。	
70112	2007/09/ 28	70553	細菌感 染	Clin Infect Dis 2007; 44: 1408-1414	2005年3月、米国ネブラスカ州の病院で複数の病室において、無針静注カテーテルコネクタールバルブが導入された時期に血流感染の急激な増加が見られた。一次血流感染について調査を行ったところ、一次血流感染と無針静注カテーテルコネクタールバルブの使用との間に有意な関連性が認められた。細菌培養を行った37個のバルブのうち24.3%から微生物が検出され、主にコアグラウゼ陰性ブドウ球菌であった。無針コネクタールバルブの評価には市場導入前に感染リスクの査定を含めるべきである。	